

「宗教界の人手不足」

日本テンプルヴァン（株） 井上拓郎

「僧侶のなりて」

日本の人口は2008年の1億2,808万人をピークに減少の一途をたどっております。2070年には総人口が9,000万人を割り込むと見られており、高齢化率は39%の水準になると厚生労働省が推計しております。このまま出生率が改善せずに推計通りであるならば、実にピーク時から人口が25%減少する事となります。人口の減少によって税収の減少や、行政サービスの質の低下、社会保障制度の財政不足や、公共施設及びインフラの老朽化などの問題が顕著になると思われます。また人口の減少は労働力の低下を招き、企業の成長を鈍化させ、経済成長にも悪影響を及ぼします。日本ではこの人手不足を解消する為に外国人労働者を受け入れておりますが、古くは1980年代後半のバブル時代に始まり、1993年には技能実習生として発展途上国から外国人の受け入れが開始され、2019年には特定技能実習生として即戦力となる外国人の受け入れが始まりました。受け入れ先の業種としては、農業や水産業、建設業や製造業、サービス業や小

売業、運送業や宿泊業、介護業などがあり、私たちの日常生活の中でも外国人労働者と接する機会が増えてきております。特に製造業、サービス業、卸売業・小売業などの単純労働に従事する外国人労働者の割合が半数以上と多く、教育・学習支援業、情報信業、医療・福祉などの高度な技術や知識が必要な業種が少ないのが特徴です。

人手不足の問題は一般企業に限った話ではなく、宗教界でも年々大きな問題となつてきています。曹洞宗では2000年から2020年の間で得度者数が約50%減少したと動向調査の報告があがつておりました。皆さんの宗派でも同様に得度される方が減っているのが現実ではないでしょうか。これらの問題の背景には、実質的な後継者不足（子弟がいらない）や、経済的事情で継がない選択をされるといった理由があると考えます。一朝一夕で改善できる問題ではありませんが、一つの取り組みとして、外国人僧侶を受け入れているお寺もある様です。ちなみに宗教年鑑（令和6年版）によりますと仏教系の教師数348,804人中、外国人教師の数は138人だそうです。日本の人口に占める外国人の割合が増えるにつれて、外国人僧侶も増えるのは必然なのかも知れません。

「僧侶の婚活」

人口減少、少子高齢化の問題は、生涯未婚率の増加や晩婚化にも影響を与えており、近い将来、男性は3人に1人、女性は4人に1人が生涯独身となると言われております。日本のお寺では後任の住職を世襲にしているところが多いと思いますが、出生率（1.15）を当てはめて考えると、4ヶ寺に1件が世襲ではなくなる可能性が高いこととなります。浄土真宗では世襲を前提として宗制に定められておりますが、現実的に難しくなるかも知れません。また出会いの機会の減少や経済的な不安など様々な要因で、独身僧侶が増えてきており、各宗派でも喫緊の課題として対策を検討しておりますが、模索しているのが現実の様です。婚活の参加対象者を寺院関係者に限定せず一般の参加者も募る形で婚活の場を提供している宗派もあれば、参加者は寺院の関係者限定としているところもあります。最近ではマッチングアプリの会社と提携して新しい婚活の場を提供する取り組みを始める宗派もあり、外部の企業や機関と提携して対策に乗り出しているところもある様です。こういった取り組みは、3人に一人がマッチングアプリで結婚する現代では珍しい事ではないのかも知れません。